

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 桜丘小 学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年・43名 (パラリンピアを招いての教室のみ 全学年 280名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○社会科) ② 行事名 (○中西麻耶選手交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 身体に障害をもって生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ○ パラリンピアの話の聞いたり、触れ合ったりすることで、誰もが前向きな気持ちで生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	(第1・2時) ○日時 11月28日 1～4校時 ○場所 体育館 ○講師 南小倉ケアマネジメントセンター ① 認知症サポーター研修 ・講座の導入として認知症のイメージをつかむ 絵本【大好きだよキヨちゃん】  ・認知症になって起こることを学ぶ ・認知症になって困ることを学ぶ ・対処法を学ぶ

② 車いすの介助の仕方・車いす体験学習



- 車いすの操作方法を知る
- 車いす介助の基本を知る
- 応用練習をする
坂道
クランク

③ 高齢者疑似体験学習



- 食事の食べにくさを体験する
- 見えにくさ・聞こえにくさを体験する
- 歩きのくさを体験する

(第3・4時)

○日時 12月9日 2～3校時

○場所 体育館

○講師 東京パラリンピック代表 中西麻耶選手

① 中西麻耶選手の講演



- 中西選手の生い立ちを知る
- 中西選手の行動力を学ぶ
- 中西選手の信念を学ぶ

② 中西選手との交流会



- 義足について知る
- 義足の着脱の実演
- 走りの実演

	<p>③ 中西選手への質問</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・義足の使い分けなど義足について知る ・選手としての活動の苦労について知る
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害や年長者の立場に立って考え、実感することができた。 ○ 認知症についての理解と出会った時の対処法など、身近な生活の中で生かせるスキルを身に付ける事が出来た。 ○ 誰もがともに共生していける未来にするための意識をもつことができた。 ○ 現役のパラリンピアに会い、生の話や触れ合いを通して、障害をもつ方々を身近に感じることができたとともに、思いや力強さを肌で感じる事ができた。 ○ 体験学習を通して、想像していた以上の不自由さや大変さを実感することができた。 ○ 現役パラリンピアに触れることで、東京2020に対する関心を高め、具体的に応援したい選手が現れたことで、東京2020への期待感を高めることができた。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校校区は、車いすに乗っている方や障害をもっている方に触れ合う機会が少なく、出会ったとしても身近でない存在のため理解が不自由分である。よって、このような体験学習や実際に障害を持つ人に出会わせることが、最も効果的な学習になると考えた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共生の社会にしていくためには、今回の学習活動に終わらず、継続的な取り組みが必要であると考え。継続的な取り組みがあらゆる立場の人の理解を深め、意識の定着につながると考える。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4学年の学習として、この福祉体験学習をⁿ年間計画に組み、継続して取り組んでいく。 ○ 中西麻耶選手の交流も、東京2020報告として、再び実施できるよう働きかけていく。